

■ドイツ：E.ONの2016年決算は過去最悪の160億ユーロの赤字

ドイツの大手エネルギー事業者 E.ON は 2017 年 3 月 15 日、2016 年決算を発表した。売上高は前年比 11%減の 381 億ユーロ（約 4 兆 6,000 億円）、EBITDA は前年比 15%減の 49 億ユーロ（約 5,900 億円）となった。また、営業損失は前年 1,200 万ユーロ（約 14 億円）から 4 億ユーロ（約 490 億円）、当期純損失は前年 63 億ユーロ（約 7,700 億円）から 160 億ユーロ（約 1 兆 9,000 億円）と大幅に悪化している。同社は、従来型発電事業などを新会社 Uniper へスピンオフし、2016 年 9 月には Uniper 株式の約 53%をフランクフルト証券取引所に上場している。今回の決算では、主に Uniper 上場に伴う簿価と公正価値の評価損として 138 億ユーロ（約 1 兆 6,000 億円）を計上したことが、赤字の大きな要因となっている。また、E.on は同年 3 月 16 日、13 億ユーロ（約 1,600 億円）の増資を開始したことも発表している。同社は、放射性廃棄物の中間貯蔵と最終処分事業におけるバックエンドコストの負担について、100 億ユーロ弱（約 1 兆 2,000 億円）を拠出することになっており、今回、これに向けた自己資本の増強を図っている。